

多発するのは「冬」の「夜間」 放火にご注意ください



冬本番を迎え、空気が乾燥するこれからの季節は、火災件数が増加する傾向にあります。その一方で、火災の出火原因として最も多いのは、放火(放火の疑いを含む、以下「放火」)で、この傾向は東久留米市においても同じです。放火火災を防ぐ対策の基本は、地域の皆さんが自ら放火火災に対する危機意識を持ち、安全で住みよいまちづくりを進めていくことです。今号では、放火火災を防ぐための注意点を紹介します。詳しくは市防災防犯課(内線2225)または東久留米消防防火査察係☎471・0119へ。

放火を防ぐための主な注意点

●建物への放火に注意

建物に放火されたケースをみると、建物外周部、倉庫・物置、共同住宅などの玄関ホール・階段室等の共用部分など、侵入しやすい場所や人気のない暗がりが目立ちます。

侵入を防ぐという観点からは、施錠管理をきちんと行うこと、照明器具を設置すること、防犯器具として市販されている侵入監視センサーなどを設置して警戒することなどが、放火火災を防止する上で有効です。また、建物の周囲に燃えやすい物を放置せず、きちんと片付けておくようにしましょう。夜間無人となる工事現場や空き家なども同様の措置を講じるとともに、敷地内への侵入を防ぐための囲いなどの設置、巡回などに努めましょう。

●ごみへの放火に注意

ごみを回収する場所でのごみや放置された古新聞・雑誌などに、夜間に放火される事例が多く見られます。ごみは決められた日の朝に出すなどのルールを、地域ぐるみで守るようにしましょう。

●車両への放火に注意

路上や屋外駐車場に駐車した車のボディーカバーや荷台に放火する例、施錠されていない車の車内に放火する悪質な例もあります。不用意に車を放置しないことはもちろん、ボディーカバーは防災製品を使用し、駐車場に常夜灯を設置することなども有効です。

●放火危険個所の改善

放火は、道路が狭く死角の多い場所や、街灯など明かりが少ない場所、可燃物が不用意に放置されている場所で発生しやすい傾向にあります。このような危険個所チェック用の町内地図を作成して自分たちの住まわりの状況を把握し、危険要因を排除するよう努めること、さらに夜間巡回活動など「見せる警戒活動」を実施することも重要です。



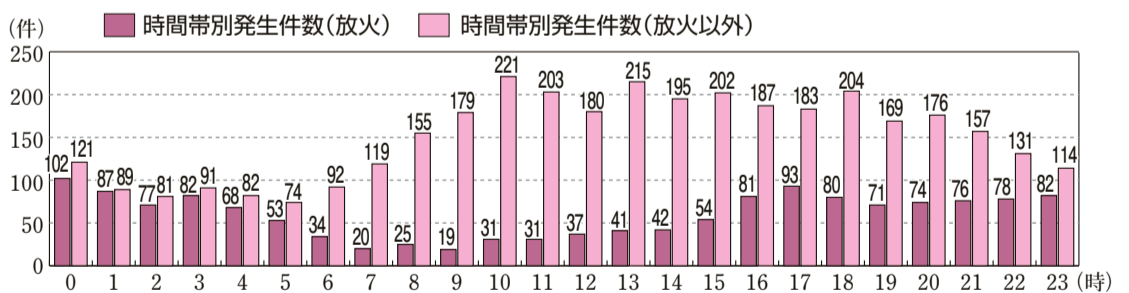
東京消防庁管内で21年中に発生したすべての火災に占める放火火災の割合は、3割を超えています(21年中の東京消防庁のデータによる。以下同じ)。放火はいつ、どのような場所でも発生しているのかその傾向をみると、放火以外の火災では人々が活動する朝から夜間にかけて多く発生

しているのに対して、放火火災は人々が睡眠する深夜から早朝の時間帯に多く発生しています。特に午前零時台〜5時台と午後11時台の時間帯の放火火災の占める割合が高く、4割以上となっています。放火された場所については、放火火災全体のうち建物関係が約4割で、中でも外部から侵入が容易な廊下、玄関ホール、階段などの共用部分への放火が4割以上を占めています。また、建物の外周部、施錠されていない倉庫や車庫にも放火されています。建物以外への放火は約6割で、ごみ捨て場に捨てられたごみくずや紙くず、販売促進用の看板やのぼり旗などへの放火が多くを占めています。今年も上半期(1月〜6月)に、放火による火災が東京消防庁管内で既に765件発生しています。一人ひとりが、放火防止に努めるとともに、地域ぐるみ、まちぐるみで放火されない環境づくりに取り組みましょう。

東京消防庁管内における主な出火原因の推移(上位10位)

順位	平成19年			平成20年			平成21年		
	出火原因	出火件数	構成割合	出火原因	出火件数	構成割合	出火原因	出火件数	構成割合
1	放火・疑い	1,852	31.9%	放火・疑い	1,809	31.4%	放火・疑い	1,835	32.8%
2	たばこ	934	16.1%	たばこ	821	14.2%	たばこ	769	13.7%
3	ガステーブル等	606	10.4%	ガステーブル等	583	10.1%	ガステーブル等	544	9.7%
4	火遊び	130	2.2%	火遊び	168	2.9%	火遊び	153	2.7%
5	大型ガスコンロ	94	1.6%	電気ストーブ	113	2.0%	大型ガスコンロ	109	1.9%
6	電気ストーブ	89	1.5%	大型ガスコンロ	97	1.7%	電気ストーブ	105	1.9%
7	コード	76	1.3%	コード	75	1.3%	ライター	74	1.3%
8	ライター	74	1.3%	ロウソク	71	1.2%	溶接器	68	1.2%
9	電気こんろ	70	1.2%	溶接器	70	1.2%	ロウソク	62	1.1%
10	ロウソク	64	1.1%	ライター	68	1.2%	屋内線	53	0.9%
	出火総件数	5,800		出火総件数	5,763		出火総件数	5,601	

21年中 時間帯別放火・放火の疑いによる火災発生状況(東京消防庁管内)



高齢者の事故防止のための注意点

都内の高齢者(65歳以上)の交通事故死者数は、全交通事故死者数の約4割を占めていて、年齢層別では最多となっています。また、自宅付近で事故に遭われる方が多いのが特徴です。



- 通り慣れた道路であっても、横断歩道を渡るなど交通ルールを守りましょう。
- 青信号でも必ず左右の安全を確認してから横断しましょう。
- 外出時には、明るく目立つ服装を心掛け、「反射材用品」を身に付けて車の運転者に「自分の存在をアピール」しましょう。

昨年の統計では、都内だけでなく、全国でも12月に最も多くの交通事故が発生しています。一人ひとりが交通ルールを守ることを目的としています。

詳しくは田無警察署☎467・0110または市都市計画課街路交通計画係☎470・7768へ。

12月1日(水)〜7日(火)の期間は

TOKYO交通安全キャンペーン

「やっつが 走る」の街「の道路」

12月1日(水)〜7日(火)は「TOKYO交通安全キャンペーン」期間です。

このキャンペーンは、春・秋と並ぶ「第三の交通安全運動」として都内で実施されるもので、「交通事故と渋滞のない東京」を目指して、交通ルールの順守と正しい交通マナーの実践を都民に呼び掛けることにより、年末期における交通事故や交通渋滞の防止を図ることを目的としています。

「飲酒運転 するも させも 犯罪者」

12月10日(金)〜16日(木)は「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」期間です。都内における飲酒運転による交通事故は減少傾向にあるものの、今年9月末現在で死亡事故が6件発生するなど、飲酒運転の根絶には至っていません。

飲酒運転は重大事故に直結する悪質な犯罪です。「飲んだら乗らない・乗るなら飲まない・飲んだ人には乗らせない」を徹底しましょう。

《今号の主な内容》

- ・湧(ゆう)水・清流保全都市宣言(仮称)についてパブリックコメントを募集します
- ・22年度上半期における市の財政状況をお知らせします
- ・AED(自動体外式除動器)をお貸しします